

## 地域ごとのまちづくり計画対話シート

作成日： 令和5年（2023年）10月17日

作成者：（課名） 市民協働推進課

（氏名） 岡田 弘志

## 1 基本情報

項目	入力欄
まちづくり協議会名	安倉地区まちづくり協議会
地域ごとのまちづくり計画	【基本目標】 1. 安全・防犯「人々が安心して暮らせるまち」
	【具体的な取り組み】 6-バス路線の充実 1. 通勤・通学時間のバスの増便要望（中山からのバス路線等） 2. 鳥島バス停の位置の移動要望
取組内容の関係課	道路政策課（公共交通担当）

## 2 対話の状況

<p>(1) 実施概要</p> <p>ア 日時： 令和5年(2023年)10月17日 9:30~11:00</p> <p>イ 場所： 市役所 本庁4F 3-2会議室</p> <p>ウ 出席者： 以下のとおり</p> <p style="padding-left: 2em;">&lt;まちづくり協議会&gt;</p> <p style="text-align: center;">●</p> <p style="padding-left: 2em;">&lt;市&gt;</p> <p style="padding-left: 2em;">羽田選挙管理委員会事務局長、村瀬公共交通担当課長、道路政策課 宮田係長、中川職員、市民協働推進課 岡田係長 5名</p>
<p>(2) 確認できたこと</p> <p>ア 通勤・通学時間のバスの増便要望</p> <p>(ア) 前回の対話を受けて市から阪急バスに話をしたところ「利用者数の減少、燃料費高騰等による経費の増大、深刻な運転士不足などの理由から、阪急バスとしても厳しい経営状況にあり、単純な増便は難しい」旨の回答があった。</p> <p>(イ) 阪急バスとしての対応が難しいことから、市による地域課題への対応を検討していきたい。バス事業者以外の企業等との連携を模索していくため、令和5年10月~11月頃にサウンディング調査を予定している。また、調査結果を踏まえて、令和6年度に実証実験を行いたいと考えている。</p> <p>(ウ) イについて、地域ニーズに踏まえた内容としていくため、10月~11月の調査後、市としての方向性を示したうえで、年明け(令和6年1月~2月頃)に改めて安倉まち協と道路政策課で意見交換を行う。</p> <p>(エ) 「対話」の形は本日で一旦終了とし、今後は安倉まち協と道路政策課が直接やりとりすることとなった。また、本件の進捗状況については随時、道路政策課から安倉まち協に連絡することとなった。</p> <p>(オ) その他、本件に関連して以下のような話があった。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 地域のニーズを吸い上げるため、まち協としてもアンケート調査等に協力可能。</li><li>② 地域の高齢者も行動範囲が広がらないとフレイルを起こし得る。安倉地域や市立病院だけでなく、行動範囲を広げるためのルートも必要。そのためには、どこかの駅につなぐ形がいいかもしれない。また「どこに停まってほしいか」というような住民アンケートを実施してもいいかもしれない。</li><li>③ 最近タクシーアプリが普及しているがそういった新しいシステムは高齢者に浸透しない。循環バスのように、路線バス形式の方が利用しやすい。</li><li>④ 実証実験する際も、実際に使ってもらえるような料金設定を検討する必要がある。例えばサブスクリプション制を導入するのも一案だと思う。</li><li>⑤ この案件は道路行政だけでなく、福祉や通勤通学等幅広い分野が絡む。関係課とも連携してほしい。</li></ol> <p>イ 鳥島バス停の位置の移動要望</p> <p>(ア) 前回の対話を受けて市から阪神バスに話をしたところ、以下の理由で阪神バスとしては移設する考えはない旨の回答があった。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① (阪神バス運転手の認識として) 約40年前から現在の位置にあること</li><li>② 利便性の向上以上に安全面が最優先</li><li>③ 移設することで伊丹市からの利用者への影響も生じること</li><li>④ 上記を踏まえてもなお、地域として移設を要望する場合は、地域側が必要な関係先への交渉及び費用負担を担えば、阪神バスとしても移設を検討してもよい</li></ol> <p>(イ) 本件については、今後まち協側で動きがあれば改めて対話の場を設けることとするが、一旦は対話終了とする。</p>